



2026.01

TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

謹賀新年

年頭のご挨拶



公益財団法人徳島県国際交流協会
理事長 三好 誠治

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては健やかに新しい年をお迎えになられたことと思います。

昨年は、ウクライナ侵攻やガザ紛争が収まらない一方、4月には「大阪・関西万博」が開幕し、世界中から2,800万人を超える来場者を迎えました。当協会としても、県内在住外国人等による「あらそわ連」を編成し、5月3日の「大阪・関西万博 徳島県催事（阿波おどり）」に参加させていただき、阿波おどりを披露するなど来場者との交流を深めることができました。

また、7月の参院選では外国人政策が重要な争点となり、この参院選の直後に青森市で開かれた全国知事会議では、「排他主義、排外主義を否定し、多文化共生社会を目指す」47人の知事により、多文化共生施策実施の根幹となる基本法の制定や司令塔組織の設置などを国に求める「外国人の受入と多文化共生社会実現に向けた提言」がまとめられました。

こうした中、昨年6月末時点で本県にお住まいの外国人数は、「9,190人」で過去最高を更新し、国籍別ではベトナム（2,332人）が最多で、中国（1,617人）、インドネシア（1,220人）、フィリピン（997人）、ミャンマー（576人）の順、在留資格別では技能実習（2,997人）、永住

者（1,484人）、特定技能（1,468人）の順でした。

これら外国人の増加トレンドは、人口減少や高齢化に伴う労働力不足を背景に本年も拡大していくことが見込まれます。当協会では、外国人が安心して生活できるよう「多言語での生活相談」、日本語能力の向上や交流の場となる「日本語教室」、防災意識を啓発する「防災出前講座」、県民の国際理解を深める「国際理解支援講師の派遣」、留学生を対象とした「ホームステイ・ホームビジット」、異文化理解の促進を図る「外国人による徳島県日本語弁論大会」など、様々な取組を展開しています。

本年も、外国人を孤立させることなく地域社会を構成する一員として受け入れ、多様性と包括性のある社会を実現すべく、職員一丸となって当協会の存在意義を一層高め、県・市町村、民間団体の皆様としっかり連携し尽力して参る所存です。

結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多き年であることを御祈念申し上げますとともに、引き続き、当協会への御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

「やさしい日本語」講話

徳島県では、11月1日を「とくしま教育の日」、11月1日から7日までを「とくしま教育週間」と定めています。その一環として、令和7年11月4日（火）徳島市城東中学校がオープンスクールを実施し、その中で講師としてお招きいただきました。

当日は、徳島県内に在住する外国人の現状と「やさしい日本語」についてお話ししました。講話では、「人の数だけ、いろいろな『ふつう』がある」こと、そして「外国の方だけでなく、クラスメイト同士でも、生活環境が違えば、考え方や習慣も異なる」ということをお伝えしました。

また、やさしい日本語について説明した後、カタカナ語やオノマトペ、さらには阿波弁をやさしい日本語に直すワークを生徒の皆さんと一緒に行いました。

600名を超える生徒の皆さんと先生方に、在住外国人の現状およびやさしい日本語について知っていただく貴重な機会となりました。

ここでは、その際にいただいた皆さんの感想を一部ご紹介いたします。



- ✂ 自分たちの「ふつう」「あたりまえ」を外国の人たちにおしつけないように、その人のふつうと自分たちのふつうを分かり合えるようにしようと思った。外国の人たちが日本の文化を分かるうとしてくれているように、自分たちも他国の文化を分かりたい。
- ✂ 都会などでは外国人向けの看板や外国人にとってやさしいものが増えていって、徳島はその点で遅れをとっているのではないかと疑問になったことが増えました。
- ✂ 私はそれぞれの文化を大切に、認められる人間になりたいと思いました。知らぬ間に自分の当たり前を押しつけないように、言動一つ一つ意識しながら生活していきたいです。外国の方に限らず、多様な今の時代、決めつけず相手を知ることが大事だと思いました。
- ✂ 少しずつでも「やさしい日本語」を使ったり、TOPIAの取り組みに参加したりして、日本の人々と外国の人々が少しでも一緒に暮らしやすいようにしていきたいと思う。

日本語支援ボランティア養成講座

コロナ禍以降、日本全国で外国人住民は毎年増加を続け、徳島県でも年間およそ1,000人増え、現在は74人に1人が外国人という状況です。こうした中、地域日本語教室の役割はますます重要になっています。日本語支援にとどまらず、文化や生活情報を伝え、人と人をつなぐ場としての機能も担っています。

今回、この変化する社会の中で何か力になりたいと考える48名の方が、日本語支援ボランティア養成講座を受講してくださいました。9月下旬から木曜日19時にオンラインで開催した講座には、県内各地から多くの受講者が参加され、多世代の参加もみられました。

講座では、多文化共生社会の現状や外国人住民が抱える困りごとを学び、やさしい日本語や日本語支援の方法について研修を行いました。さらに、三好市と神山町での実地研修では、外国人住民と対面でおしゃべりをしながら日本語支援を体験しました。初めての方が多く、「難しかったけれど楽しかった」という声が多く寄せられました。

受講者の方には、今後も外国人住民に寄り添い、共に地域を支える存在として活躍していただけることを期待しています。



三好市での実地研修の様子



神山町での参加者

日本舞踊に挑戦しました！



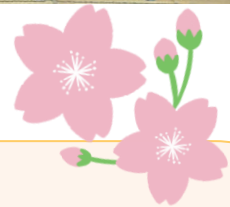
令和7年12月13日（土）、当協会にて、フィリピン・マダガスカル・中国出身の参加者5名が、日本舞踊に挑戦しました。2時間にわたるお稽古の指導をしてくださったのは、日本舞踊「遊之會（ゆうのかい）」の皆さんです。「遊之會」は長年にわたり、外国の方々への日本舞踊の普及に力を注いでおり、毎年開催されるお披露目の会では、外国人参加者も日頃の練習成果を披露しています。

今回の体験会には、二つの目的がありました。ひとつは、より多くの外国の方に日本舞踊の美しさや奥深さを知っていただくこと。もうひとつは、日本語での指導を通して、日本語に触れ、実際に会話してみる機会とすることです。講師の先生方が、基本の構えから扇子の使い方、足運びまで丁寧に日本語で説明すると、参加者は一生懸命耳を傾けながら動きを真似ていきました。

今回参加した皆さんは、舞踊に挑戦するのは全員が初めてでしたが、日本語のレベルは初級から上級までさまざまでした。最初は戸惑いも見られましたが、次第に動きがそろい、教室には笑顔が広がりました。質問が飛び交ったり、互いに声をかけあったりする場面もあり、日本舞踊と日本語の両方に積極的に向き合う姿が印象的でした。

体験を終えた参加者からは、「普段できないことに挑戦できて嬉しい」「簡単そうに見えたけど、とても難しかった」「日本語で教えてもらったので、言葉も一緒に覚えられた」「とても楽しかった。また参加したい」など、前向きな感想が多く寄せられました。

今回の体験会を通じて、日本舞踊と日本語の両面から日本文化に触れる貴重な機会となりました。今後も、参加者の皆さんがこの体験をきっかけに、日本舞踊や日本語への関心をさらに深めていただければ幸いです。



国際理解支援フォーラム開催

徳島県内在住の外国人3名を講師にお迎えし、「日本での子育て・教育」「イスラム教」「文化・慣習の違い」についてお話しいたします。講演のあとは、講師と参加者が気軽に意見交換できる交流会も行います。

詳細はTOPIAホームページに掲載しておりますので、ぜひご参加ください。

日時：2026年1月25日（日）14：00～17：00

会場：徳島県国際交流協会（TOPIA）

参加費：無料

申し込み方法：右のQRコードからお申し込みください。
当日参加も大歓迎です！

お問い合わせ：（公財）徳島県国際交流協会

TEL：088-656-3303

申し込みは
こちらから



大規模災害時外国人支援対応訓練



令和7年11月29日（日）、阿南市新野公民館にて「令和7年度 大規模災害時外国人支援対応訓練」を実施しました。阿南市をはじめ、阿南市社会福祉協議会、地域国際交流協会・日本語教室に協力をいただき、地域在住外国人、防災士会、新野婦人会、徳島県など、多様な立場の方々、総勢50名にご参加いただきました。

訓練前半では、当協会より災害時におけるやさしい日本語のポイントや、スマートフォンを活用した多言語翻訳ツールの紹介を行いました。その後、今回の講師である一般社団法人さいわい代表理事・井若和久氏が、アイスブレイクとして「災害時、避難所の設営は誰の責務か」などの防災クイズを交えながら参加者同士の対話を促しました。また、新野婦人会の皆さまのご指導のもと、ハイゼックス袋を用いた炊飯の準備にも取り組みました。

後半は、①受付、②掲示板、③食料配布、④子ども・女性配慮、⑤相談、⑥徳島県外国人相談センターの6班に分かれ、避難所に外国人が来訪した状況を想定して実践的な訓練を行いました。本訓練の目的は、日本人住民と外国人住民が協働し、互いが支援者となることで共助力を高め、誰にとっても居心地のよい避難所運営を実現することにあります。

各班では、実際の避難所運営を想定しながら、外国人住民への必要な配慮について検討し、役割に応じた実践を行いました。掲示板班では、日本語での情報を「やさしい日本語」に書き換えたり、多言語へ翻訳したりするだけでなく、外国人に必要な内容が確実に届くよう工夫しました。

食料配布班では、宗教上の理由などで食事に配慮が必要な方に対応するため、食品の材料をピクトグラム等で表示し、視覚的に分かりやすい配布方法を取り入れました。

最後には、班ごとに訓練の内容や課題を参加者全体で共有し、災害時に外国人住民へ支援を届けるための地域連携の在り方や、市・県との情報共有について意見交換を行いました。外国人参加者からは「訓練に参加して、防災意識が高まった」との声が寄せられ、日本人参加者からも「地域の外国人や旅行者も災害時には被災し支援を必要とすることに気づけた。新しい発見があり大変よかった」といった感想があり、双方にとって大きな学びのある機会となりました。

今後もTOPIAは本事業を活用し、災害時における外国ルーツ住民への支援体制の強化を図るとともに、外国人住民と協働した防災の取り組みを県内でさらに推進してまいります。



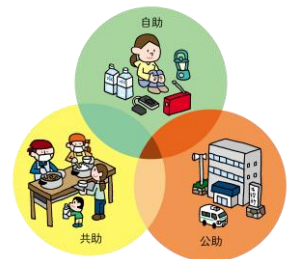
井若氏による
アイスブレイクの様子



ハイゼックス炊飯の準備



ハザードマップで
避難所を確認



防災ハンドブック

徳島県国際交流協会では、防災ハンドブック（日・英・中・ベトナム語）を作成しています。当協会のHPからダウンロードができますので、ぜひ、地域の外国人住民の方たちにハンドブックをご紹介します。



防災センター・スタディ・ツアー



令和7年9月28日（日）、県内在住の外国人の皆様へ地震や災害について学んでいただき、日頃の防災意識を高めることを目的に、「防災センター・スタディ・ツアー」を開催しました。当日は、3か国から18名の方々にご参加いただきました。

まず、徳島県制作の映像「津波から命を守る」を視聴し、地震による津波発生時の仕組みや避難行動について学びました。続いて、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）と同じ震度7の揺れを体験し、「この揺れが長く続いたら大変なことになる」と驚きの声も聞かれました。その後、消火訓練では消火器の使い方を学び、日本語で「火事だー！」と周囲に知らせながら消火体験を行いました。また、煙体験や暴風体験など、実際の災害を想定したさまざまな体験を通して、防災への理解をさらに深めていただきました。

後半は、NHK徳島のスタッフによる「災害時のトイレの使い方」講座を実施しました。大地震の後は配管の歪みによってマンションなどでトイレが逆流・溢水するおそれがあることが映像で紹介され、災害直後に絶対にトイレを流してはいけない理由が説明されました。さらに、非常用携帯トイレの使用手順（便器に袋をかける → 凝固剤を入れる → 使用する → 袋を結んで処理する）や、家庭で3日以上以上の備蓄しておく必要性についても学びました。

今回の学びを日々の防災準備に活かしていただき、いつ起こるか分からない災害にしっかり備えるきっかけとなれば幸いです。



Safety tips

観光庁監修のもと開発された、日本国内における緊急地震速報、津波警報、噴火速報、気象特別警報、国民保護情報、避難勧告等を通知する無料アプリです。訪日外国人旅行者向けに開発されたアプリですが、外国人住民の方たちにも災害時に役立つ様々な機能があります。

日本語、英語、中国語（繁・簡）、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、タガログ語、ネパール語、クメール語、ビルマ語、モンゴル語の14か国語（15言語）で提供されています。



iPhone



Android



防災出前講座

「南海トラフの巨大地震」の発生が危惧される今、災害弱者となりやすい在住外国人への防災知識の提供や支援体制の整備が急務となっています。

当協会では、在住外国人の方を対象に、地震や津波から命を守るための基本的な情報を説明する「防災出前講座」を実施しています。

外国人の方が所属されている団体や関係者の方で、出前講座の開催をご希望の方は、当協会までお気軽にご連絡ください。



外国人向け年金セミナーを開催しました

令和7年8月20日（水）、当協会会議室で外国人を対象とした年金セミナーが開催されました。講師として日本年金機構徳島北事務所から職員3名が来られ、ベトナム・インドネシア・フィリピン・ネパール・中国出身の9名の外国人がセミナーに参加しました。

参加者は中国語・英語・ベトナム語の3つのグループに分かれ、当協会の相談員による通訳と、通訳アプリを活用した通訳のサポートを行いました。講師からは、国民年金の仕組みや加入の意義、保険料を納めない場合に生じる不利益、また、学生納付特例や経済的に支払いが困難な場合に利用できる免除や猶予制度についても丁寧に解説いただきました。さらに外国人も年金加入が義務であり、年金の未納が在留資格（ビザ）に影響する可能性があることや、帰国時に受け取れる「脱退一時金」の申請方法についても説明がありました。

講義後には、個別相談に対応いただきました。参加者からは「年金の仕組みを初めて理解できてよかった」「未納の空白期間があり不安だったが、今回の話で解決の糸口が見えた」「厚生年金の扶養家族についても聞いてよかった」などの声が寄せられました。今回のセミナーは、外国人住民にとって日本の社会保障制度への理解を深める貴重な機会となりました。



ONE WORLD 子ども支援事業



令和7年11月30日（日）に行われた「ONE WORLD子ども支援事業」は、世界の未来を担う子どもたちに、国際交流を通して、国際理解や国際協力への意識の醸成を図る事業です。今年度も昨年度に引き続き、徳島市・名東郡PTA連合会が主催するお仕事体験イベントと同時開催しました。県内の40以上の企業や団体が集まり、小・中学生はそれぞれのブースでお仕事体験を楽しみました。

TOPIAブースでは、徳島の在住外国人への相談業務に36名の小中学生がチャレンジしました。アメリカ、中国、ケニア、ベトナム、メキシコ出身の外国人講師が、子どもたちに日本語で簡単な相談をします。（「カタカナの名前の書き方を教えてほしい。」「徳島のおすすめの料理は？」「病院から届いた説明書に書いてあることの意味がわからないので、説明してほしい。」）なかには、恥ずかしくてなかなかうまく話すことができない子もいましたが、子どもたちは、紙に書いて説明したり、やさしい日本語を使ったりして、質問に答えていました。

また、付き添いの保護者からは「TOPIAという団体を初めて知った。」「自分の会社に外国人が働いているので、TOPIAの日本語教室を紹介したい。」「徳島で一番多い外国人はベトナム人だとは知らなかったなので、勉強になった。」などの感想も聞くことができました。

今回、外国人と交流したという経験が、子どもたちの将来の夢を叶えるきっかけになればうれしいです。



JICA徳島デスクのページ

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は、日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

JICA海外協力隊表敬訪問 ～2026年度春募集～

○JICA海外協力隊出発隊員表敬訪問

12月1日（月）、JICA海外協力隊の出発隊員および帰国隊員による表敬訪問を実施しました。出発隊員は派遣先での抱負を熱く語り、帰国隊員は現地での経験を日本の医療現場で活かしていきたいと話しました。JICA海外協力隊として、現地の方々とともに課題解決に向けて活動する2年間は、かけがえのない時間です。人生100年時代。ぜひ、JICA海外協力隊に挑戦してみてください。



（徳島県庁にて）

○JICA海外協力隊 2026年春募集(2/27-4/15)

令和8年2月27日（金）～4月15日（水）、JICA海外協力隊2026年春募集を実施します。徳島県にはJICA徳島デスクがあり、協力隊に関する個別相談を受け付けています。「語学が心配」「協力隊の制度について知りたい」など、どうぞお気軽にご相談ください。また、2月下旬ごろにJICA海外協力隊募集説明会を徳島県で開催予定です。詳細は決まり次第、JICA四国のホームページやSNS（Facebook、Instagram）でお知らせしますので、ぜひチェックしてください。「人生なんて、きっかけひとつ！」あなたの一步を応援します。

詳しい情報につきましては、JICA四国HPをご覧ください。

【お問い合わせ先】独立行政法人国際協力機構（JICA）四国センター
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
電話番号：087-821-8824 ファックス：087-822-8870 メール：jicaskic@jica.go.jp

JICA四国 イベント



～お仕事体験イベント報告～

○徳島市・名東郡PTA連合会主催の「お仕事体験イベント」にJICA徳島もブースを出店しました。

令和7年11月30日（日）、アスティ徳島で開催された「お仕事体験イベント」に、JICA徳島も参加しました。当日は、JICA海外協力隊経験者（徳島県青年海外協力協会）のボランティアスタッフとともに運営し、子どもたちに「協力隊体験」をしてもらいました。まずJICAの概要を紹介した後、2つのグループに分かれて「モルディブ体験」と「ニカラグア体験」を実施しました。モルディブ体験では、モルディブの文化や言葉を学んだ後、「モルディブの幼稚園児に楽しく言葉を教えるには？」というテーマでワークショップを行いました。子どもたちからは「カルタにしたらどう？」「リズムに合わせてみたらどうかな？」といった意見が出され、みんなで実際に試しました。ニカラグア体験では、ニカラグアの文化やスペイン語の簡単なテストを行った後、「サッカーをしたいけどボールがない。どうする？」というテーマでワークショップを実施しました。あるもので工夫し、作り出す体験してもらい、協力隊の醍醐味である「考えて、作り出す」を体感してもらえたと思います。スタッフ一同とても楽しい時間を過ごしました。またお会いできるのを楽しみにしています！



（モルディブブースにて）

イベント予定や過去のイベントについての詳細は、
JICA四国Facebook及びInstagramをご覧ください。



JICA四国 Instagram

JICA四国 Facebook



JICA徳島デスクでは、いつでも皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

デスク：徳島県国際交流協会（TOPIA）内／徳島県国際協力推進員 服部

TEL：088-656-3303 Email：jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

JICA四国HP：https://www.jica.go.jp/shikoku/index.htm

JICA海外協力隊の
個別相談受付中



「とくしま外国人支援ボランティア会員」

＊募 集 中＊

徳島県には約95か国・地域、9,190人（県人口の74人に1人）の外国人の方が住んでいます。加速する少子高齢化と労働者の不足により、今後ますますその数は増えていくことが予想されます。彼らが、この徳島で国籍などに関係なく生き生きと生活することができるよう、ボランティアになって支援していただきながら一緒に国際理解や多文化共生を推進していきませんか？

詳しくはとくしま国際戦略センターホームページの「ボランティア募集」をご覧ください。



TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受けることができ、賛助団体は会議室の予約を3か月前から申し込むことができます。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費	個人会員	一口	3,000円/年度
	団体会員	一口	10,000円/年度

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

人とふれあい 人とつながり

多文化理解&多文化共生！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として、当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをして下さる県内在住外国人の方を募集しています。興味のある方は、どうぞお気軽に当協会までご連絡ください。



徳島県外国人総合相談窓口

徳島県で生活する外国人のみなさんにとって、暮らしやすい地域社会であることを目指し、外国人総合相談窓口を開設しています。当協会では英語、中国語、ベトナム語のほか、たくさんの言語で対応ができますので、仕事、医療、子育てなど生活でお困りのことがございましたら、当協会に來所いただくか、お電話下さい。

開所時間：10：00～18：00（年末年始を除く）

場 所：とくしま国際戦略センター

（公益財団法人徳島県国際交流協会）

多言語対応：

(1) 多言語(英語・中国語・ベトナム語)相談員の配置

(2) 電話通訳システムの導入

（通訳事業者、行政機関も交えて4者間で相談できる）

【対応言語】21言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤インドネシア語 ⑥タイ語 ⑦マレー語
- ⑧タガログ語 ⑨ネパール語 ⑩ミャンマー語
- ⑪クメール語 ⑫モンゴル語 ⑬ポルトガル語
- ⑭スペイン語 ⑮フランス語 ⑯ドイツ語
- ⑰イタリア語 ⑱ロシア語 ⑲シンハラ語
- ⑳ベンガル語 ㉑ヒンディー語

(3) 映像通訳システムの導入

（相談者・相談員と通訳者との対面相談に対応）

【対応言語】8言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤タイ語 ⑥ポルトガル語 ⑦スペイン語
- ⑧ロシア語

(4) 対面式通訳機(ポケットク)の導入(74か国語)

(5) 多言語翻訳アプリ(ボイストラ)の導入

相談専用TEL：088-656-3312、088-656-3313

相 談 料：無料（ただし、電話代は自己負担となります）

問い合わせ：公益財団法人徳島県国際交流協会
〒770-0831

徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F

開所時間：月曜日～日曜日 10：00～18：00

閉所日：年末年始

TEL: 088-656-3303 FAX: 088-652-0616

URL: <http://www.topia.ne.jp>